

オブジェ・パネル・乾漆

a2200423 長瀬 久美子

デザインコンセプト

オブジェとパネルを「時間」、乾漆を「食を楽しむ」というテーマにしました。

オブジェ 『流れ』

どろりと溶けているような形にしたことで、物の形が時間によって次第に変化していくことを表現した。丸みを帯びた部分と、尖った部分を取り入れて流れる時間差も表した。

パネル

有名な江戸時代の版画と、現代のシンボルとなる物をパネルの中で融合させることにより、「時代の変化」を表現した。機械的な物を表現するために銀粉の上に乾漆粉を蒔くという技法を使った。

乾漆(片口)

元来片口はお酒を入れる小型の器として使用されてきた。しかし私はそんな片口のイメージを変えたいと思い、大勢での「食を楽しむ」というテーマで大きな片口を制作した。

オブジェ

- 1,発泡材で形を作る
- 2,布着せ 布目摺り
- 3,錆付け
- 4,錆固め
- 5,下塗り 中塗り
- 6,上塗り
- 7,研磨
- 8,胴摺り
- 9,呂色磨き

乾漆

- 1,発泡材で形を作る
- 2,型に錫を貼る
- 3,布着せ 目摺り×7
- 4,型からはずし、切粉付け×2
- 5,高台部分を木地ろくろにて制作
- 6,高台の取付け
- 7,錆付け
- 8,錆固め
- 9,下塗り 中塗り
- 10,上塗り
- 11,胴摺り

パネル

- 1,木固め
 - 2,錆付け
 - 3,研ぎ
 - 4,下塗り
 - 5,中塗り
 - 6,上塗り
- 蒔絵、螺鈿
- 1,絵を蒔絵粉の種類に分けて構成し、漆を描く
 - 2,銀粉、乾漆粉を蒔く
螺鈿の部分には薄い貝を貼る
 - 3,粉固め
 - 4,塗込み
 - 5,拭き漆
 - 6,胴摺り
 - 7,呂色磨き

オブジェ
「流れ」



乾漆



パネル

考察・感想

オブジェは初めて完成させた作品で、呂色仕上げという漆の光沢がよく出る技法を学んだ。光沢を出すためにはへこみ、傷は絶対に消さなければならず、その作業はとても苦労した。パネルでは蒔絵、塗りたてを学び、乾漆では木の漆器にはない布特有の制作工程を学んだ。制作中は時間が足りなくていつも急いでいる状態が続いていたけれど、苦労した分、完成させた喜びも大きくなった。漆は普段の生活ではなかなか経験できないので、約1年半漆に触れていられたのは良い勉強になった。長年、愛され続けている漆だが、最近是人々の足が遠のきつつある。漆を地域の物として考えるのではなく日本の大切な文化として、これからも長く続いていって欲しい。